

増田俊男の『愉快な暴言』2026年6月30日国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] t_masuda2019/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] t.masuda2026/



時事評論家 増田俊男

1ドル 162.20 円！政府・日銀よ、恥を知れ！

ここのところ円が対ドルで 162.20 円の最安値を更新している。

5 月の連休前に円が 160 円を超えた時、政府・日銀が 12 兆円規模のドル売り・円買いの介入をした直後、私は「いくら介入しても直ぐ元の木阿弥になる」と本誌でも増田チャンネル（無料動画配信）でも述べた。

5 月の介入直後約 5 円の円高になったが、その後円安が続いてきた。

介入はいわばカンフル剤で、痛みを一時的に止めるだけで痛みの病根を直すものではないから一過性である。

30 年以上続いた「日本経済死に体の根本原因」は何だったのか。

何故黒田日銀総裁の二期 10 年間で日本からアメリカへ 1,550 兆円が逃避したのか。

アメリカの財務省が定期的に日本の財務省に指示する年次改革要望書とは何であって誰の為なのか。政府・日銀は 5 月には 160 円プラスで介入したのに今日 162 円プラスなのに何故介入しないのか、いや出来ないのか。

ニューヨーク市場にとって、日本の 5 月介入は好都合であったが、今は困るのがわかるだろうか。

2009 年民主党が政権の座につき鳩山由紀夫総理大臣は「対米追従は止めるべきだ、その最たるものが年次改革要望書だ」と言って同要望書を廃止した。

途端にドル・円は 70 - 80 円台の円高になった。

菅、野田を経て 2012 年安倍内閣になると年次改革要望書が復活、以後愛弟子の高市早苗の政権まで円安が続いている。円安の病根は日米金利差などという生易しいものではない！日本の財政・金融が、まったく知らないうちに「アメリカファースト」になっていたと言うことだ。こうした肝心なことを深く掘り下げて勉強するのが「インターネット目からウロコの増田塾」なのである。

一見気がふれているのではないかと思われるトランプ発言も、たまには裏（真実）が隠されている。それがわかれば株で大儲けができますよ！

※増田俊男の小冊子 Vol.159 先行受付中！お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

先行受付中！増田俊男の小冊子 Vol.159

『迫りくる日本の危機』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 159 は先行受付中です。

内容は、特集：イラン戦争の真実 ＊習近平、プーチン、金正恩三者「鉄と血の結束」が狙うのは何か ＊2027 年に何故朝鮮戦争は再開されるのか ＊台湾有事でアメリカは曖昧、日本は明確、その結果は？！ ＊逃げるトランプ、攻めて来る習近平、日本を救う唯一の道、それは？！ ＊今世紀も遠く日本の理想などです。価格は、1冊 5,800 円(送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U. S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313、HP : <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。